

CP-6-Ⅲ-27	<b>薬学特別演習</b>	第6学年	前期 選択	2.5単位
<b>担当者</b>	浅井 和範・久保 元・大野 修司・山内 理恵・渡邊 雅行			
<b>一般目標 (GIO)</b>	薬剤師に求められる薬学関連情報の知識を統合し薬物治療に貢献する医療の担い手となるために、薬学基礎、応用 及び 臨床科目の基本的知識における重点ポイントを修得する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	<p>【薬学基礎科目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床に必要な物理学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>2. 臨床に必要な化学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>3. 臨床に必要な生物学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> </ol> <p>【薬学応用科目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床に必要な衛生化学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>2. 臨床に必要な薬理学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>3. 臨床に必要な薬剤学の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> </ol> <p>【薬学臨床科目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床に必要な法規・制度・倫理の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>2. 臨床に必要な病態・薬物治療の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> <li>3. 臨床に必要な実務の知識のうち、重点ポイントを説明できる。</li> </ol>			
<b>受講心得・準備学習等</b>	臨床に必要な薬学基礎、応用 及び 臨床科目を学ぶことにより、薬の適正使用のための基本的知識のうち、重点ポイントを把握するよう心がける。			
<b>事後学習・復習等</b>	配付のプリントあるいは参考書を基に、予習 及び 復習を行い、知識を確固たるものにするように努める。さらに、不明な点に関しては、オフィスアワーを利用して問題の解決をはかる。			
<b>オフィスアワー</b>	原則、演習のある日の17時～19時までとする。			

#### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		各回とも3コマを利用して演習形式で行う。
回	項目	内容
1～3	臨床に必要な物理学	臨床に関連する物理実践問題演習
4～6	臨床に必要な化学	臨床に関連する化学実践問題演習
7～9	臨床に必要な生物学	臨床に関連する生物実践問題演習
10～12	臨床に必要な衛生化学	臨床に関連する衛生実践問題演習
13～15	臨床に必要な薬理学	臨床に関連する薬理実践問題演習
16～18	臨床に必要な薬剤学	臨床に関連する薬剤実践問題演習
19～21	臨床に必要な病態・薬物治療学(1)	臨床に関連する薬治実践問題演習(1)
22～24	臨床に必要な病態・薬物治療学(2)	臨床に関連する薬治実践問題演習(2)
25～27	臨床に必要な法規・制度・倫理学	臨床に関連する法規実践問題演習
28～30	臨床に必要な実務(1)	臨床に関連する実務実践問題演習(1)
31～33	臨床に必要な実務(2)	臨床に関連する実務実践問題演習(2)

<b>成績評価の方法</b>	各回の演習時間内に小テストを実施し、その合計点で評価する。
<b>成績評価の基準</b>	教務規程に準拠し、試験の点数が60%以上を合格とする。
<b>教科書</b>	プリントを配付する。
<b>参考書など</b>	日本薬学会編「スタンダード薬学シリーズ」(東京化学同人) 浦部 晶夫他「今日の治療薬」(南江堂) 高久 史磨「治療薬マニュアル 2016」(医学書院)